



【ツユクサ】

今でこそ和装の帯は後ろで結び目があるのが当たり前ですが、それは江戸時代の元禄以降であったようです。元禄期から帯の幅が広くなり、装飾も豊かになり、後結びが主流になって行ったようです。

元禄時代とは、神坂次郎「元禄御畳奉行の日記」中公新書によると「元禄の世は、人びとの表情も動きもきらびやかであった。江戸では大分限者の紀伊国屋文左衛門、奈良屋茂左衛門、京の中村内蔵助、大坂の淀屋辰五郎といった伊達男たちが湯水のように金銀を撒いて豪興を競った時代である。」とあります。松尾芭蕉や、浮世草子の井原西鶴、日本のシェイクスピア近松門左衛門、歌舞伎では初代市川団十郎、上方では初代坂田藤十郎、名女形の芳沢あやめが、そして浄瑠璃の竹本義太夫、尾形光琳たちが華やかに登場しました。

この華やかな庶民の文化の開花とは逆行し、徳川幕府は庶民を抑え込む態勢を強めていきました。その幕府のお膝元から離れた京坂では、扇の絵師であった宮崎友禅斎が描いた紋様が光琳などの画風も合わせり図案化され友禅染が人気となりました。これは布の上に下絵を描き、その上に糯米で作った糊を置き、下地と絵柄を分けて染色した後、金糸銀糸の刺しゅうを施す技法によって、大きな模様の京友禅が作られました。

この友禅染の下絵を描くのに使われたのが、ツユクサの変種オオボウシバナです。滋賀県草津市を中心に栽培されており、草津市の市花にもなっています。このオオボウシバナは野生のツユクサに比べて大きく、ツユクサと同様早朝に開花し、昼には萎ん

でしまいます。そこで青い花を早朝から午前中に摘み取り、

絞って青い汁をつくります。それを和紙に染み込ませ乾かすことを繰り返して青花紙にし、友禅の下絵を描くときに使いました。アオバナの汁は水に溶けるので友禅の下絵を描くときには必須のものでしたが、今では化学青花が使われるようになり、その生産もほんの僅かを残すのみとなってしまいました。それでも、加賀友禅をはじめ全国にはまだこの花から作る天然の青花紙を使うところもあるということです。また、最近はこの植物の成分が糖尿病に対する薬効があることがわかり、アオバナ茶として草津市の「あおばな館」で販売されています。

（文・写真 飯島 昌）



オオボウシバナ（草津市）



オオボウシバナ

ツユクサ

6月の花とみどりの講習会

【アジサイを育てよう】

日時：6月13日(土) 10時～正午

内容：アジサイの管理栽培方法を学びます。

場所：花とみどりの相談所

講師：元同所相談員 松尾 由利子さん

定員：24人 費用：300円

申込：6月6日(土) 9時15分～ 電話可 先着順



【多肉植物の寄せ植え】

日時：6月27日(土) 10時～正午

内容：多肉を使った寄せ植え

場所：花とみどりの相談所

講師：菰田 千晴さん

定員：24人 費用：1000円

申込：6月20日(土) 9時15分～ 電話可 先着順



作品はイメージです

花とみどりの相談

【相談時間】

火曜日・木曜日の13時から16時30分までです。

電話による相談も行なっています。

《6月の休所日》 毎週の日曜・月曜日です。



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曽根南町1丁目4番1号(豊島公園内 阪急宝塚線 曽根駅南 約500m)

TEL 06-6863-8439

FAX 06-6863-3638